

バンコマイシン投与患者の血中濃度測定率



測定対象

《分子》 分母のうち、バンコマイシンの血中濃度測定を実施した患者数

《分母》 バンコマイシンを処方した患者数

解説

バンコマイシンは、治療薬物モニタリング（TDM:Therapeutic drug monitoring）を必要とする抗菌薬の1つで、定期的な血中濃度測定による投与量の精密な管理が必要とされます。測定結果に基づく適正な投与計画により、腎障害や肝障害の合併症や耐性菌の発生等を防ぐだけでなく、適切な効果発現が可能となります。医師や薬剤師らによるチーム医療を促進し、適切に TDM を遂行することが重要です。

結果

2019 年度 91.3 %

2018 年度 91.3 %

分析

バンコマイシンなどの抗菌薬は血中濃度を適切なタイミングで測定し、血中濃度が有効域（細菌に対して有効となる範囲）かつ安全域（副作用が生じにくい範囲）にあることをモニタリングする必要があります。バンコマイシンを投与している患者さんに対して、高い確率で血中濃度を測定しているため、その結果に合わせて適切に投与量の調整が行われていると考えられます。バンコマイシンの血中濃度のモニタリングと投与量の調整は、担当医師だけでなく、各病棟に配属されている薬剤師も大きく関わっており、さらに、適切な抗菌薬の選択について ICT（Infection control team；感染制御チーム）の助言も得られています